



# 交差するパレスチナ

新たな連帯のために

在日本韓国YMCA [編]

日・韓・在日を架橋する運動体にして、2006年からパレスチナとの交流事業を継続してきた日本韓国YMCAが2021〜22年に主宰したオンラインティーチンが待望の書籍化。

差別の複雑な実態を把握し、それに対する解放実践にインスピレーションを与える交差性

(インターセクショナルリティ)の概念によって、パレスチナをめぐる抑圧と抵抗の歴史を

再照射し、ありうべき連帯の可能性を開示する。フェミニズム、批判地理学、パレスチナ

とアメリカ黒人解放闘争との接点、クイア理論、在日朝鮮人とパレスチナ、日本赤軍の足

跡、パレスチナ解放神学、シオニズムと対峙する宗教思想といった

先鋭的な視角からなる8本の論考が詰め込ま

れた、交差的な知と実践の道具箱。

◆四六判・204頁・定価2640円

3月24日発売

## 【目次より】

パレスチナからのメッセージ

ニダル・アブズルフ

### 第1章

パレスチナとの交差を見つけ出すために

### 第2章

交差的フェミニズムと連帯の再検討

### 第3章

「占領のロジスティクス」という視座から

### 第4章

アメリカ黒人解放闘争とパレスチナとの連帯

### 第5章

テキストとアートで辿る闘争の経絡

### 第6章

パレスチナと性／生の政治

### 第7章

パレスチナの歴史的鏡像としての在日朝鮮人

### 第8章

私が私たちになるために

### 第9章

パレスチナと日本の社会運動

### 第10章

ジェンタイル・シオニズムとパレスチナ解放神学

### 第11章

パレスチナと共闘するための宗教

### 第12章

断断に抵抗した越境的思想家たち

### 第13章

パレスチナと共闘するための宗教

### 第14章

断断に抵抗した越境的思想家たち

### 第15章

断断に抵抗した越境的思想家たち

### 第16章

断断に抵抗した越境的思想家たち

早尾貴紀

役重善洋

太田昌国

中村一成

保井啓志

阿部小涼

北川真也

金城美幸

# コヘレトの言葉

人生を生きよ

◆四六判・221頁・定価2310円

ヴァルター・リュティ著／穴戸達訳

コヘレトはニヒリストではない！

「すべては空である」と観ずる旧約中の異色の人物。しかし著者は、神への信仰に立って自らの人生を生きよと勧める人として読む。傑出した説教者による力強い講解！『説教者ソロモン』を改訳・改題して贈る。

「実のところ、わたしにとっては、コヘレトという人は、赤いベレー帽をかぶった人物のように思えるのです。すなわち、灰色の生活、そして、しばしば真っ暗闇になってしまう日常生活のただなかで、いつも灰色の帽子を脱いで赤いベレー帽を愛用する人物です。」（本書より）

3月17日発売



リュティは1901年スイスに生まれる。6人兄弟の5番目。幼くして父を亡くし、貧窮の中を母に育てられた。ベルンのミュンスターで23年間教会、トウルンアイゼンと共に雑誌『バーゼル説教集』の編集に関わる。名説教者として知られ、多くの説教集を出版した。1982年逝去。

新たな旧約略解シリーズ（全4冊）第3弾 3月17日発売

## 旧約聖書 文学書 要約と概説

宮平 望 著

◆A5判・220頁・定価2090円

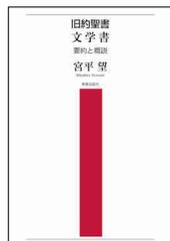
旧約聖書の各章をヘブライ語原典に基づいて要約し、新約聖書の視点からメッセージを解説する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込み、聖書の通読が楽しくなる。複雑多様な旧約の世界を学び進めるための好個の手引き書。

「文学書」は、ヨブ記、詩編、箴言、コヘレトの言葉、雅歌を扱う。

\*みやひら・のぞむ氏は西南学院大学国際文化学部教授

既刊 旧約聖書 律法書、旧約聖書 歴史書、

近刊 旧約聖書 預言書



山口希生著

## ユダヤ人も異邦人もなく バウロ研究の新潮流

信仰義認論を最重視する従来のパウロ理解に異議を申し立て、20世紀後半から英米圏の新約学界で激しい論議を呼んでいる「パウロに関する新しい視点」(NPP)。本書は19世紀のパウルから21世紀のパウクレイによる最先端の議論までを追跡。本邦初のNPP本格解説書。四六判・予価2500円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

## マルティン・ニーメラー ヒトラーに逆らった牧師「仮題」

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第二次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキズニカルな場で活躍した激動の生涯。四六判・予価3500円

富坂キリスト教センター編

## 日本におけるキリスト教フェミニスト運動史

70年代から2010年代まで年表と解説で展望すると共に同時代を生きた4人の女性の証言を付す。さらにメディア表象から異性愛規範への抵抗まで6つのテーマを考察。山下明子、山口里子、大嶋果織、堀江有里、水島祥子、工藤万里江、藤原佐和子著。画期的な書。B5判・予価3300円

● 2月に出た本と雑誌

## 動物という隣人

鬼頭葉子著 共感と宗教から考える動物倫理



従来の動物倫理に潜む人間中心主義を克服すべく、哲学とキリスト教神学の両面からこの問いに接近し、動物への共感とアガペーに基づく新たな動物倫理を構想する。

◆ A5判・定価5995円

## エリックとマチルダ

ミーシャ・リヒター作／みつじまちこ訳



思いを伝える方法って何だろう？好きな子が振り向いてくれず、落ち込み悩むエリック。そんな彼に森の賢者が与えたアドバイスとは……。〈伝える〉ことをめぐる、シンプルだけれどたいせつなこと。

◆ B5判・定価1980円

## 福音と世界

◆ 定価660円

3月号 問いとしての人権

寄稿者…川本隆史、鬼頭葉子、杉岡良彦、薄井良子、原田雅樹、森島豊／書評 山口希生／好評連載 山下壮起、C・J・サンダース&A・ヤーバー、山崎ランサム和彦、有住航、田崎英明、山口陽一、勝村弘也

●朝鮮人留学生たちが二・八独立宣言を  
発表した地として知られ、小社からは宣  
言の一〇〇周年を記念した『未完の独立  
宣言』を刊行している在日韓国YMCA  
は、二〇〇六年からパレスチナ・東エ  
ルサレムYMCAとの交流を続けていま  
す。その一環として、イスラエルによる  
土地収奪への監視・抗議の意を込めたオ  
ープン収穫プログラムにわたしが参加し  
たのは、二〇一一年のことでした。とい  
うとなんとも生真面目に響きますが、ま  
ず思い出されるのは、現地のタクシー運  
転手の兄ちゃんやグラフィティの名所や  
CD屋を回ったり、大阪訛りの日本語話  
者で自称DJのおじさんやBボーイとヒ  
ップホップを聴いて喋ったりした記憶。

要するにわたしはサボっていたわけでは  
なく、しかし、そうした経験をしたからこ  
そ自分には、パレスチナ解放のために労  
する義務があると思っています。在日本  
韓国YMCAの編による三月の新作『交  
差するパレスチナ——新たな連帯のため  
に』は、その意味でわたし自身にとって  
念願の書籍です。近年日本語圏でも議論  
が進んでいる交差性の概念を軸として、  
八本の論考とパレスチナ現地からの報告  
を編み込んだ同書の企画は、人種や性や  
階級、植民地主義や家長制や資本主義  
といった複数の要素による「支配の交差  
性」を分析し、それにたいする「解放闘

争の交差性」を構想するための道具箱と  
なること。ぜひこれを手に取り、パレス  
チナの新たな連帯のために使い倒して  
いただければと思います。(堀)

●カルヴァンの『共観福音書下』の刊行  
を記念するシンポジウムが西宮で催され  
ました。講演は、澤正幸氏の「カルヴァ  
ン著作集刊行会と戦後日本の教会」、お  
よび村上みか氏の「カルヴァン神学の真  
髓——霊と知の妙なハーモニー」とい  
うぜひいたく内容。編集子は澤講演から  
キリスト教出版史の一断面に触れえたこ  
と、また古典出版の意義を改めて再認識  
できたことが嬉しく、村上講演からは創  
造論から出発し基本的に世界に対して肯  
定的で明るいカルヴァン神学という新鮮  
な知見、利子の是非をめぐるカルヴァン  
の説に彼のいわば歴史的聖書解釈の真骨  
頂が現れていることなどを学べて、多く  
の収穫がありました。ただ、残念だった  
のは参加者が三〇名台と少なかったこと  
です。宣伝期間が短かったせいもあるの  
ですが、「オンラインはないのですか」と  
いう問い合わせも意外に多かったた  
です。対面イベントは、オンラインでは難  
しい参加者どうしのあいさつや立ち話な  
ど「余白」的な交流もできて楽しいので  
すが、コロナ禍で定着したオンラインイ  
ベントには高齢者の需要が特に多いとい  
うことを改めて知らされました。(小林)

# 福音と世界

2023年  
4

## 特集・戦争と破局

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料(送料共) 8760円

核の破局リスク——世界と日本はどう対処  
すべきか——鈴木達治郎

米国の覇権持続のために死ぬのは日本人の  
義務であり喜びである——白井聡

戦場へのカウントダウン——「利用される  
国境の島々の苦悩」——三上智恵

「世界の宝」憲法九条とともに——松永武  
旧約聖書と破局——田島卓

世界戦争と枢軸時代——福嶋揚

【書評】坪光生雄『受肉と交わり』……伊藤潤一郎  
【新連載】

◆私は告白する、私の神を……長尾優  
◆地域から考える在日朝鮮人史と教会史  
——関東大震災から100年をおぼえて……金耿晔

【好評連載】

◆フッド・スプリチュアリス20……山下壮起

◆教会におけるマイクダクション12 サンダース、ヤハバ

◆「日本のキリスト教」を読む15……山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書16……山崎ランサム和彦

◆古代イスラエル文学史序説26……勝村弘也

◆霊性のエゴロジーあるいは「マニマニア」26 村澤真保呂